

かわさき
⑥川崎 <千代田町>

人口 251 人、世帯数 62 世帯

川崎地区は、県道 15 号線の西にあり、中地江川が南北に通っています。昔は、中地江川左岸に粘土瓦工場があり、干満を利用して船の行き交う光景が見られました。また、川には魚介類も多く、鵜を使って漁をする姿も見られました。

地区では、八幡神社、観音堂、薬師堂を祭り、八幡神社南側には「天照皇大神宮、天満宮、天神様」の三体も祭られています。12月の村祭りには、八幡宮と共におはらいをしていただき、一緒にお祭りをします。

平成 17 年度には、地区の歴史をつづた「川崎物語」を作りました。



▲しめ縄づくり

おおしま
⑤大島 <千代田町>

人口 309 人、世帯数 89 世帯

大島は、国道 385 号線の東側に位置し、南を流れる筑後川と水田に囲まれた穏やかな地区です。地区の北と南には、菅原道真公を祭っているお宮があり、福岡県の英彦山神社に参拝するために毎年、2月第2日曜日に行われる「水かけ祭り」が受け継がれています。

地区行事としては、3・9月の「御神楽」、5月の「麦ごもり」、8月の「観音さん豆ちやごう」、9月の「豊作祈願おこもり」などを行っています。また、子ども相撲やグラウンドゴルフなども行い、賑わっています。

これらの行事について、皆さんの協力により継続し、これからも親睦を図っていきます。



▲毎年 2 月に行われる「水かけまつり」

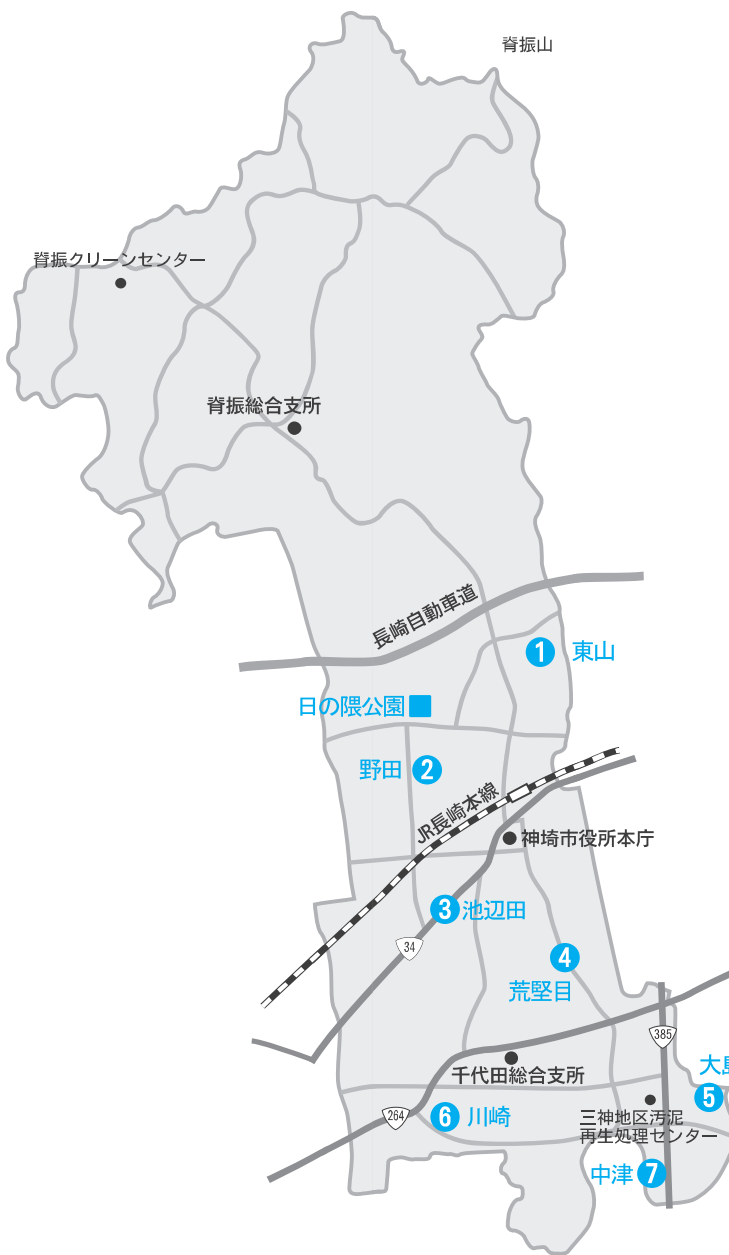
地区紹介 12



市民相互の理解と融和を図るため、市内 121 地区（神埼：63 地区、千代田：49 地区、脊振：9 地区）を紹介しています。

今回は、7 地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成 21 年 1 月末日の住民基本台帳のデータです。（施設などを含まず。）



のだ
②野田 <神埼町>

人口 72 人、世帯数 23 世帯

野田地区は、日の隈山の南の位置にあります。歴史は古く、江戸時代、佐賀藩大隈公の支配による約 30 町の土地がありました。

地区には、四面神社があり、雲仙の島原が発祥といわれる四つの面を持つ神「國魂神」が祭られています。

地区行事は、綾部神社参拝、体育大会、敬老会、四面神社祭りなどがあります。12月第1日曜日には、地区住民総出で四面神社のしめ縄作り、神前の飾りつけなどを行い、榎田宮の神主さんを迎えて祭事を行っています。

また、昨年 9 月、大字竹（7 地区）で「竹栄会」が発足し、合同でスポーツ行事、イベントなどを行いました。



▲四面神社と神社風に作られた公民館

ひがしやま
①東山 <神埼町>

人口 149 人、世帯数 49 世帯

東山地区は、吉野ヶ里歴史公園の北にある南北 1 キロ程の長細い丘陵地帯で、旧東脊振村と接しています。昭和 30 年に食糧増産の掛け声のもと開拓地として開かれました。現在は住宅化が進み、新しい住民が多くなり賑やかになりました。

新しい地区なので伝統行事はありませんが、江戸時代の学者である恩田均一の墓があります。地区では、老人クラブ、婦人会、子どもクラブが活動していますが、先般、プロのインディアン・ハーブ奏者・志賀昭裕さんを招き、青少年育成の一環として、子どもクラブと地区住民が一堂に会し、演奏を聴きました。



▲インディアン・ハーブの演奏会

ひがしやま
■日の隈公園 <神埼町>

日の隈山は、奈良時代から通信・伝達施設として烽（のろし）が置かれ、江戸時代以降には肥前七隈の一つとしての景勝地でした。また、山麓部には、古代官道や農業用の溜池（日の尺池など）が数多く存在しており、農業の安定的な生産のための用水確保と洪水などの調整機能をもっています。

園内には芝のグラウンドがあり、スポーツなどを楽しむことができます。春には、桜の名所として多くの観光客が訪れ、満開の桜が人々の目を楽しませてくれます。



▲公園周辺には、桜が咲き誇る

なかつ
⑦中津 <千代田町>

人口 91 人、世帯数 29 世帯

中津は、筑後川に面し、国道 385 号青木中津大橋と堤防県道諸富西島線が交差するところに位置します。河川敷には神崎市営筑後川運動公園グラウンドがあり、地区総出で年 5 回公園出入口市道周辺の除草・清掃活動に取り組んでいます。

地名の由来は、昔、中津は有明海に面して船を着ける津（港）があり、また、黒津と迎島津の間であったことから中津の名前が付けられたと言われています。

伝承行事は、春ごもり、祇園祭、12 月に村祭りです。他に氏子（農家）による弁財天祭りを年 3 回催しています。



▲河川敷：筑後川運動公園グラウンド

あらかため
④荒堅目 <神埼町>

人口 160 人、世帯数 38 世帯

荒堅目地区は、神埼町の南端で千代田町の高志地区と隣接している純平坦農村地帯です。

地区には、荒堅目遺跡（現在一面水田地帯となっている）があり、縄文時代晩期から弥生時代の多量の土器などを含む層や竪穴住居跡などが確認され、貝塚や石器、木製品などが多数出土しているところと見られます。

このように歴史ある地区で、公民館を中心として様々な活動を行っています。

特に、次代を担う子どもたちは、祇園祭や親子お泊り会、豊作祈願のモグラ打ちなど活発に活動しています。



▲親子でモグラ打ち（公民館にて）

いけばた
③池辺田 <神埼町>

人口 56 人、世帯数 21 世帯

池辺田は、城原川右岸にある平坦地で、周囲には堀が多くあり、江戸時代には「池辺村」といわれていました。その中で最大の堀は、東西 5 条・南北 5 条もあり、国道 34 号線をまたいで広がっています。

地区行事としては、江戸時代から行われていたという春と秋の「おこもり」、秋の「秋祭り」、これらに、最近「敬老会」が加わりました。

現在、敬老会対象者が 15 人（地区の約 3 分の 1 が高齢者）で、小学生は 1 人と先行き寂しい状態となっていますが、公民館清掃など公役（くやく）には約 80% の出席率でお互い助け合い、地区の発展にまい進しています。



▲地区敬老会